



日本財団
The Nippon Foundation

助成事業

2010 年度笹川医学奖学金进修生 同学会学术交流会

——华北、东北地区
会议指南和论文摘要

2010.11.27

主办单位： 笹川医学奖学金进修生同学会

协办单位： 北京大学医学部中西医结合学系/微循环研究中心
(財) 笹川記念保健協力財団
(財) 日中医学協会

1. 特別講演

特別報告 1

伝統医学の世界的潮流

渡辺賢治

慶應義塾大学医学部漢方医学センター

東アジア伝統医学は古代中国に起源をもつ医学であり、長い歴史の中で、中国・韓国・日本において独自の発展を遂げてきた。本来伝統医学はそれぞれの地域で行われてきた医学であるが、1990年代から西洋医学に対する不信から世界中でその他の医療に対する関心が高まり、英国では補完医療、米国では代替医療として徐々に浸透していったが、現在では補完・代替医療として世界中に広まっている。中でも伝統医学は歴史に裏付けられ、系統だっていることからWhole Medical Systemとして位置づけられ、他の補完・代替医療とは区別されてきている。

こうしたグローバルな潮流に対し、世界保健機関(WHO)も注目をしており、1978年にはプライマリ・ケアを謳ったアルマータ宣言に伝統医学の必要性が盛り込まれ、2008年11月には北京においてアルマータ宣言の30周年を記念した会がWHO総長のマーガレット・チャン氏を招いて大々的に開催された。

さらにWHOは鍼灸のツボの位置の標準化を行い、論文作成の基盤を作った。現在WHOでは国際疾病分類(ICD)の次期改訂に向けて伝統医学を盛り込む作業を進めている。これは日中韓のみならず、世界中から専門家を招いて作業を進めている。ICDは1900年から始まる世界保健統計の基礎となる分類で、世界中の死因統計の比較などはこれに基づいている。最近では死因統計のみならず、疾病統計として、医療現場で、保険請求などにも使われている。こうした世界保健の主流である仕組みに伝統医学が組み込まれていくことは画期的なことであり、世界保健の一員として正式に位置付けられることになる。

しかしながら、西洋医学主流の世界保健の流れの中に伝統医学を組み込む作業は容易ではない。日中韓が力を合わせ、きちんと対処していくことが重要である。

渡辺賢治先生履歴



1984年 慶應義塾大学医学部卒業後同大学内科学教室、
1990年 東海大学医学部免疫学教室助手、1991年～1995年
米国スタンフォード大学遺伝学教室および米国スタンフォ
ードリサーチインスティテュート分子細胞学教室ポストドク
トラルフェロー、1995年～2001年 北里研究所東洋医学総合
研究所、2001年 慶應義塾大学医学部東洋医学講座准教授、
2008年 慶應義塾大学医学部漢方医学センター センター長・准教授 現在
に至る。

日本東洋医学会理事、日本東洋医学会漢方専門医・指導医、日本内科学会
総合内科専門医、米国内科学会上級会員、日本医学教育学会評議員、WHO tem-
porary advisorを歴任